

宝塚歌劇団の台湾初公演 ～ 心が通い合う、感動的大成功！

(公財)交流協会台北事務所 総務部長 岡田健一

4月6日(土)から4月14日(日)まで、99周年を迎える宝塚歌劇団が初の台湾公演を行いました。一言で言えば、文字通り大成功！幾つもの国から公演要望がある中で、東日本大震災時に台湾から比類なき支援を頂いたので、台湾公演を決定されたとのことですが、公演当日も、日台関係に特有の、温かい心と心の通い合いが強く感じられました。宝塚は、今や日台関係にとって、なくてはならない存在になったと言っても過言ではないと思います。

実は、公演前から前評判は極めて高く、切符は飛ぶように売れたそうです。切符が何とかならないかと私のところにも多くの台湾の友人から照会が相次ぎました。当地の日系企業の方に聞いてみると、若い世代の台湾の女性社員の間で評判になって、切符を買う人が多いとのこと。実際に公演を観覧した際に周りを見ると、確かに若い女性が目につきました。

さて、その公演です。4月6日(土)夜の初演は、今回の台湾公演の実現に大変な御尽力をされた日華議員懇談会の平沼赳夫会長、藤井孝男同幹事長を含む日華議員懇談会所属の国会議員の方々総計7名、更には台湾側もその場で重要会議が開けそうなくらい多くの要人がVIP席に姿を見せる中でスタート。まずは、第1部の「宝塚ジャポニズム」です。ジャポニズムというだけあって、最初は「桜」でした。歌のメロディーにのって華麗な日本の美が展開します。初演の夜、私の斜め前に座っておられた台湾の要人は、日本に留学した際に初めて習った歌が「桜」であったので、今

回の公演の冒頭が「桜」で本当に感激したとのこと。また、その後に出てきた「荒城の月」のシーンでは、私の左隣に座っている中年の台湾の男性と一緒に歌っているのが分かりました。本当に日本と台湾は深く深く結びついているのだなと改めて感じた次第です。

続く第2部「怪盗楚留香外伝」は、そもそも台湾公演のために特別に作られた演目でした。そして、その中で、台湾語の有名な歌である「雨夜花」という歌が出てきた瞬間、文字通り会場がどよめきました。私自身も、台湾に対する宝塚の気遣いの深さを感じ入り、誇張でなく、涙が出そうになったくらいでした。

さらに最後の第3部に入ると、舞台が入れ替わってスターが出てくるたびに、特に男役トップスターの柚希礼音さんが新しい衣装で登場するたびに、熱狂的な歓声で会場は更に盛り上がりました。宝塚の関係者によれば、台湾の観客の方々の反応は日本の観客より更に熱く、舞台の上の団員の方々も本当に楽しく演じられたそうです。その舞台は、特に柚希礼音さんが中国語で「月亮代表我的心」を歌うと最高潮に達しました。

更に、初演の夜、カーテンコールで、星組組長の万里柚美さんが「台湾は東日本大震災の際、いち早く多大なるご支援を届けてくださいました。日本への愛を強く感じます。日本を代表して、感謝の気持ちを込め千秋楽まで舞台を務めたいと思います。」と述べた時には嵐のような拍手が鳴り響き、私の右隣に座っていた台湾政府の要人も何

度も何度も頷いていました。お互いがお互いを気遣う日本と台湾。宝塚は、改めてそれを我々に感じさせてくれたと思います。

最終公演の夜には、4回にも及んだカーテンコールで、舞台の上の団員から「台湾を愛しています」「必ずまた来ます」のエールが、中国語で何度も繰り返され、総立ちの会場から拍手がいつまでもいつまでも続きました。本当に感動的でした。また、翌日、あるトップスターの方と話す機会があったので、「次はいつ来ていただけますか」と尋ねたら、「このまま台湾にずっと残っていたいで

す」というお答え。日台双方、本当に心に響くものがあった証だと思います。

なお、17年に及ぶ交渉が続いていた日台漁業協議が、ちょうど今回の宝塚の公演期間中に歴史的な妥結を見ました。この協議にも携わっていた私にとっては、宝塚星組は正に Lucky Star に見えました。宝塚台湾初公演の感動的なまでの大成功、そして日台漁業協議の歴史的妥結を経て、日台関係が幸運の星の下で更に進展することを願ってやみません。